

「日本語ボランティアゆうわ」のこと

酒井 董美ただよし



冊子から お花見(有原中央公園で) 2016年4月

このほどオールカラーの冊子『日本語ボランティアゆうわ20年のあゆみ』A4判12ページをいただいた。送り主はゆうわ代表の鶴石一樹氏であり、氏は古代出雲歴史博物館でもガイドをなされている。島根大学在職当時、筆者も留学生に日本語を教えていたので興味深く拝読した。

さて、出雲市と言えば、県内の市町村の中で一番多くの外国人がいるところとして知られており、現在も4300人が住んでいる。富士通や村田製作所の企業が多く、ブラジルからの人たちを雇用している。同市での外国人の増加を加速している。したがって、隣人として彼らを歓迎することは、市内の住民にとっても自然の流れ

といえる。そのようなことから、平成11年9月出雲女性センターを日本語学習の教室として「日本語ボランティアゆうわ」が設立され、手探りで日本語指導が始まったのである。そして平成12年4月に学習会場は健康文化センターに移され、平成24年3月には社会福祉センターに変更されながら、今日まで日本語学習が続けられている。

またゆうわの活動は日本語を教えるだけでなく、外国から来た人たちがわが国の文化に溶け込めるよう、出雲大社へ参詣したり、松江の堀川遊覧船に乗ったり、フォーゲルパークを楽しんだり、梨狩りを一緒にしたり、あるいは料理教室でブラジル料理、タイ料理、モンゴル料理などを作ったり、わが国のものでも、たこ焼きや蕎麦打ちとか、わかあゆの里(立久恵峡)でバーベキューをしたり、書き初め、ひな祭り、七夕学習、琴の演奏などいろいろと文化交流のメニューが工夫されている。ここに示した写真は平成28年4月の有原中央公園(同市塩冶有原町)での花見のスナップである。

教える立場の苦勞を「先輩ボランティアの回顧談」の中で、坂本ちひろさんは「…ある日の教室では会話形式で学習する場面に合わせて、先生と生徒の顔をペープサート(注)紙人形劇のこと)にし持参し、一人二役で例題を示したところ、学習者の興味をひき、活気のある教室になりました。…」と述べている。一方、受講者のひとりである鈴鈴さん(中国)のメッセージを紹介しておく。「ゆうわに二年間通っています。とても助けていただきました。先生たちとても親切です。先生によくおいしい食べ物をつくっていただきました。いつも感謝の気持ちで、ありがとうございます!」と記している。

こうした努力が認められ、「ゆうわ」は先月18日「県民いきいき活動奨励賞」として県知事表彰を受賞したばかりであり、それに先立つ平成26年にも公益財団法人・しまね国際センターから国際化表彰を受けている。宜なるかなである。「ゆうわ」の今後の更なる発展を心から期待しているところである。(元島根大学法文学部教授)